

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2019年度 助成者)

作成日 2019年 9月 1日

氏名 (フリガナ)	山下 知子(ヤマシタ トモコ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2019年8月12日 (月) ~ 8月17日 (土)
大学名	帝京大学
学年	5年生

この度私は日米医学医療交流財団の助成を受け、ハワイでの医学部夏期集中医学英語研修に参加してまいりました。私は6年生のBSC期間に海外の大学での研修を検討しておりますので、今回の医学英語研修で勉強できたことは、とても参考になると同時に貴重で刺激的な経験となりました。

医学英語研修の主な内容は、PBL、現地の病院見学、現地で働く日本人医師の方々からのお話・アドバイス、そして英語でのMedical interviewとCase presentationでした。

私達のスケジュールは前年度とは異なりPBLのクラスから始まりました。自大学でもPBLやグループディスカッションの授業はあったためPBLのクラス自体に戸惑いはありませんでした。しかし手渡される文章や他の生徒とのやり取り、ホワイトボードへの記録は当たり前ですが全て英語で行われ、遅ればせながら私は、ここで本当に海外で医学英語研修を行うのだという実感がわきました。私はこの研修以前に他のワークショップに参加したことがなかったため、医学的な英語のやり取りの仕方など他の生徒から学ぶことが多く、得るものが多いクラスでした。

現地の病院見学では、Kuakini病院とSt.Luke'sクリニックを見学させていただきました。Kuakini病院ではハワイでの医学研修の特徴や病院の施設の説明をしていただき、放射線科や救急科など病院全体の見学することができました。St.Luke'sクリニックではクリニック全体の説明とアメリカの医療制度についてのお話を聞きました。特にSt.Luke'sクリニックはアラモアナショッピングモールのすぐ近くで、窓からの景色がとても綺麗で驚きました。クリニックに来ていた患者さんも日本人らしき人が多く、海外で暮らす日本人のための診療の需要を感じました。

ハワイで働く日本人の先生方からの貴重なお話や、英語でのMedical interviewとCase presentationは、主にハワイ大学のJohn A. Burns School of Medicine (JABSOM)キャンパスで行われました。現地で働く先生方からは、将来海外で研修を行ったり医師として働いたりする場合のプランや働き方などを教えていただきました。参加した生徒の中にはすでにUSMELを取得し海外での医師としてのキャリアを考えている人もいたため、Personal Statementの書き方や推薦状を書いてもらう方法など、とても具体的なお話を聞くことができました。先生方のお話を聞いたことで海外での医学研修がより具体的で身近なものになり、自分がどのような勉強や準備をすればいいのか明確になったように思いました。

Medical interviewとCase presentationの講義については、英語でのやり方をほぼ知らなかったため私は一からの勉強となりました。海外ではCase presentationは一般的であり、研修の評価もこのCase presentationによってつけられるということを私は恥ずかしながら知らなかったため、海外研修の前にこの医学英語研修で勉強することができて本当に良かったと思いました。Medical interviewも日本人生徒同士だけでなく模擬患者であるJABSOMの生徒に対しても行えたのでとても実践的でした。医師として自然な質問の仕方や表現についてもJABSOMの生徒に直接質問することができました。医学的な内容の質問や会話を全て英語で行うというのは初めての経験でしたが、JABSOMの生徒の方々も、またCase presentationを聞いてチェックして下さった先生方にも、優しくかつ具体的に教えていただけたので一つずつ覚えていくことができました。

今回の医学英語研修に参加したことで、海外研修を考える他の生徒たちから刺激を受けただけでなく、ハワイ大学でのMedical interviewを通じて英語での医学的な会話に自信が持てるようになりました。特に自

分の英語での発言がきちんと模擬患者の人たちに通じ、必要な情報を聞き出すことができたというのは、今後海外で研修を行う際に自信となる経験になったと感じています。将来の海外研修のために今の自分がすべきことも具体的にわかるようになり、私がこの医学英語研修で学んだことや得たことはとても貴重で大きいものになりました。このような素晴らしいワークショップに参加させていただき、日米医学医療交流財団の方々には心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。